

## 令和3年度

### 第2回総合教育会議 会議要点録

日時	令和4年2月10日(木)午後1時30分から午後2時40分まで
場所	大府市役所 委員会室1
出席者	市長、教育長、富田教育委員、竹中教育委員、浅井教育委員、西村教育委員
企画政策部	企画政策部長、企画広報課長
教育委員会	教育部長、主席指導主事、学校教育課長、指導主事(2)、学校総務係長、学校総務係主査
オブザーバー	山内副市長
公開の可否	公開
傍聴者数	2人
議題	(1)大府市幼保児小中連携教育の指針「きらきら」の改訂について (2)子どもの学力テスト・体力テストの結果について

#### 開会

##### 1 あいさつ

市長 ・本市の新型コロナウイルスの感染状況について憂慮すべき状況となっている。至学館大学にはエッセンシャルワーカーのPCR検査での協力を得ており、また、市では買い物支援の取組も行っている。市としてしっかり対応していきたい。

・まもなく市議会第1回定例会が開催される。教育委員会に関係する予算としては、北山小学校でバイオリンによる音楽教育を試行し、また、水野紗希さんによる小学校訪問コンサートを開始したいと考えている。民間プールの活用についても実施校を拡大していきたい。体力向上プロジェクトでは実施時間の拡充、学校の人的な面では、市独自の特別学級補助員と養護教諭補助員を増員する。小学校の体育館の空調設置については令和4年度ですべての学校の整備を完了する。小中学校の照明についてはLED化を進めていきたい。北中の地下貯留槽の上のテニスコートについては令和4年度中の整備を行う。低学年のタブレットについて1人1台整備を行う。先生方が仕事をしやすい環境を整えていきたい。

教育長 ・教育委員には小学校の体育館空調の視察をしていただいた。市長部局の理解があって教育について積極的な展開ができている。

・県は来年度、小学校4年生まで35人学級とする見込み。良いことだが、教員に不足感が生じている。教務主任や校務主任が年度当初から担任を担わなけ

ればならない状況が生じるかもしれない。

・小学校5、6年での教科担任制についての取組として、来年度、本市に1名の加配が見込まれる。

## 2 協議・調整事項

### (1) 大府市幼保児小中連携教育の指針「きらきら」の改訂について

#### 《事務局から内容について説明》

- 指導主事
- ・本市では、平成24年度に大府市幼保児小中連携教育の指針「きらきら」を策定し、家族や地域と教育関係機関等が意識の共有を図りながら「大府市がめざす子どもの姿」の実現に向けて取り組んでいる。
  - ・令和3年度から「第3次大府市教育振興基本計画」の計画期間が開始したことを踏まえ、内容の見直し及び改訂作業を行い、改訂案を作成した。
  - ・改訂に際しては基本的な考え方に変更を加えてはいない。今回の改訂は、具体的な取組内容や文章表現について、社会の変化を踏まえ、子ども、大人全員が、主体的に取り組む内容とした。
  - ・これまで、取組の詳細として子どもの様子を評価する項目を「評価の観点」としていたが、「めざす子どもの姿」に変更した。
  - ・活動目標の設定として、「読書や運動をする日」などの具体的な例示をしないこととし、「きらきら10」の内容を参考に、自分で主体的に目標を決めて取り組むこととした。
  - ・毎月第3週を「きらきらチャレンジウィーク」とし、取り組むこととしていたが、実施の日は自分で決めることとし、毎月第3週は取組を振り返り、活動を見直す期間とした。
  - ・きらきらチャレンジの取組を記録するカードの運用について、保育園児、幼稚園児はこれまでどおり紙のカードにシールを貼る運用を継続し、小中学生は紙のカードから、タブレットを使用し電子データのカードに入力する運用に変更する。
- 教育長
- ・ご質問などお聞かせ願いたい。
- 浅井委員
- ・中学生になっても取組が継続するように工夫してほしい。
- 教育長
- ・中学生は家族との距離感が生じる場合もある時期だが、中学生の反応を見ながら実施方法を工夫していきたい。
- 竹中委員
- ・「きらきら」に書いてあることを、子どもの生活の中での私事（わたしごと）として捉えさせることが周知となる。

- 教育長 ・子どもへの周知に生かしていきたい。
- 西村委員 ・正しい姿勢が重要。学校の椅子の高さ調整をして、良い姿勢で学校生活を過ごせると良い。
- 教育長 ・小学校では姿勢の指導を行っている。大切な事柄である。
- 富田委員 ・姿勢と視力には相関があると思う。  
・鉛筆の持ち方の指導も重要である。持ち方の補助器具がある。例えば新入生全員に配付できるなどできると良い。
- 市長 ・きらきら 10 に書いてあることは大切なことばかりである。常に子どもの目に触れるよう工夫をしてほしい。子どもたちにとっての市民憲章のような存在となると良い。

## (2) 子どもの学力テスト・体力テストの結果について

### 《事務局から内容について説明》

- 指導主事 ・小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に令和 3 年 5 月に調査を行った。  
・調査の結果を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。  
・調査内容 1 は、教科に関する調査として国語、算数・数学を、調査内容 2 は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を行った。  
・小学校国語は、おおむね良好であり、上位の子の割合が全国と比較して高かった。目的や意図に応じ、資料を使って話すことは、全国よりも正答率が高く、よくできていた。  
・小学校算数は、おおむね良好であり、平均正答率・正答数は全国平均よりも上回った。棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることはよくできていた。複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形の構成の仕方を考えて、面積の求め方と答えを記述することは、全国と同じように低く課題である。  
・中学校国語は、おおむね良好で平均正答率・正答数は全国平均よりも若干上回った。話し合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりすることはできている。語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことは、全国と同じように課題である。  
・中学校数学はよくできており、平均正答率・正答数は全国平均よりも上回り、よくできている。与えられたデータから中央値を求めたり、表やグラフから必要な情報を適切に読み取ったりすることはよくできている。  
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査では、小中学生ともに生活習慣や他人との協力に関する項目については肯定的な割合が高か

った。難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している等は割合が低かった。

・指導の改善のポイントとして、小学校国語では、自分の考えがよく伝わるようにするために、題材の内容に対して自分の考えの根拠がふさわしいかどうかをよく吟味し、必要に応じて事例を入れるなどしてまとめるなどの練習などが必要である。小学校算数では、組み合わせでできた図形の面積を求める際に、公式を用いるための必要な情報が直接示されていない場合にも、どんな図形が組み合わせられているかに着目し、必要な情報を見いだすことができるようにさまざまな問題に取り組むなどの必要がある。中学校国語では文章を推敲する場面において、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などの観点から、自分が書いた文章のよい点や改善点を考え、文章を捉え直すようにする活動を大切に、分かりやすい文章を書く力を身に付けるなどの必要がある。中学校数学では数に関する事象や数量、図形の性質などについて、数学的に考察したり、筋道を立てて説明したりする活動を充実させるとともに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することなどが大切である。

・教科に関する調査と質問紙とのクロス集計として、多くの質問において肯定的な意見をもつ児童生徒が、各教科の調査において高い正答率となっている。

#### 指導主事

・子どもの体力テストの結果について、令和元年の結果と比較すると小学生は全国平均を超えている種目が増えてきている。アンケート結果からすると、放課後や学校が休みの日に運動部や地域のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることが、全国平均と比べてかなり高い。生活習慣の面では、朝食を毎日食べる児童・生徒が全国平均よりかなり多い。

・改善の方向と手立てとして、走る、跳ぶ、投げるといった基本動作による運動能力の向上を目指した取組を継続する。授業や放課、部活動の場面などを活用して多様な運動経験を積ませる。現在取り組んでいる、小学校での外遊びの奨励、縄跳び・ランニングなどの活動を継続するなどが考えられる。

・具体的には体力向上プログラムを小学校1年生で積極的に取り組み、また、体育の授業、部活動において技術の向上に限らず基本的動作の習得や体力向上を目指した運動量の確保の推進をすることに取り組む。

#### 学校総務 係長

・体力向上プロジェクト（大府はつらつ運動プログラム）の実施状況等について、小学校1年生を対象とし基本動作の13領域の歩く、走る、跳ぶ、押す、引くなどを意識した体を動かすプログラムを実施した。

・各学級年間3回の授業の中で専門の講師を招いて担任と共に実践した。

・教職員を対象としたワークショップとして、ノウハウを継承すると共に、校内全体で広くプログラムを取り入れていけるよう、教職員全体を対象として開催した。

・実施の成果として、指導のテンポが速く、児童の運動量がより多く確保でき

たことや、児童がより楽しい気持ちで授業を受けられたこと、児童をレベル別に分けて、それぞれの児童に合った細やかな指導ができたこと、高度な専門的指導により、正しい体の使い方を指導することができたことが挙げられる。

・今後の取組として成果指標を設けて計測をしていきたい。

教育長 ・ご意見ご質問をお聞かせいただきたい。

西村委員 ・令和4年度の計画として、体力向上プログラムの回数増加とあるが、体力テストの結果の低い項目を意識したカリキュラムとなるか。

主席指導 ・基本動作を意識した指導をしており、寄与するものと考えている。

主事

富田委員 ・運動に対する意欲を持つような指導をしてほしい。そういう面では体力向上プロジェクトは良い取組である。

・タブレットを活用して更なる学力向上に役立ててほしい。

浅井委員 ・大府市の学力結果は良いと思うが、成績の良くない子どもたちへのケアも大切にしてほしい。

・体力向上プロジェクトは、運動量が多く、頑張ること、乗り越えることを学ぶ良い機会であると感じた。

市長 ・体力向上プログラムは、令和4年度に充実を図り、その上で今後のことを考えていきたい。本市は数学者永田雅宜の出身地であることに関連させて、公民館で算数講座を行い算数、数学に親しめるような取組を行う。また、令和4年度から数学検定の受検料の補助制度を創設し、併せて、より上位の級の合格者に対しては表彰を行いたいと考えている。